おふたいむ

追い求めたい品のある仕事

京都芸術家国民健康保険組合理事長

鎌田 章二 氏

――新型コロナウイルスの感染拡大の影響はどういう形で出ていますか。

「私たちの組合は芸能・美術・工芸・伝統工芸や音楽、映画、デザイナーら個人事業主・フリーランスの医療保険です。４月に入り国保組合の事務局に、組合員から『舞台や公演などの仕事がなくなり、保険料の支払いが難しい』といった切実な相談が増えています」

組合独自に国保料を減免

「きょう（4 月 10 日）、常務理事会を開き、とりあえず第２期分（６・７月分）の国保料を 50%減免し、第 1 期分については支払いを６カ月間猶予することなどを決めました。これから、理事さんに書面での承認を得てから、組合員さんに告知する予定です。困っている方がおられるので、組合独自で早期対応をとることにしました」

――そのほかに何か影響はありますか。

「組合員の健康増進事業として、プールなど施設利用券を発行している 3 施設が感染拡大防止のため期間休館となり、利用できないという余波も出ています。一刻も早く、この危機が収束してほしいですね」

――ところで陶芸の道に進まれたきっかけは何だったのでしょうか。

「会社員の家庭だったんですが、小さいころから絵を描くのが好きで、自分の手でモノをつくる仕事がしたいと思っていたんです。友達のお父さんの紹介で、五条通の近くにあった共同の登り窯に行っておられた方の所へ手伝いにいき、陶芸に出会ったわけです。それから 50 年がたちます」

「陶芸の魅力ですか？　う～ん、無から有を生み出すおもしろさかなぁ。「美」とか「形」には答えがないから、いくらでも、どこまでも、追求できるという魅力があるんです」

――ご自身の健康法はなんでしょうか。

「土をもみ、窯に焼き物を詰める。けっこう肉体労働なので、仕事そのものが健康法かな。それからね、ストレスをためないこと。あまりこだわらないことかな。若い時は、いい作品をつくりたい、失敗しないようにしようとあくせくしていた。でも、今は失敗しても『ああ、あかんかったな。しゃないな』と思えるようになりました（笑）」

仕事場の窓から空を眺め

「コロナ感染防止のための外出自粛によるストレスが問題になっていますが、僕らは家の中が仕事場です。１週間ぐらい家の外に出ない時もありますが、仕事場の窓から空を見るのが好きでね。夕焼けや月を眺めていると、なんとなく幸せな気分になります」

――最後に、仕事で学んだこと、大切にされていることを教えてください。

「やっぱり品格ですかね。美を伴って、なおかつ厳しく鍛錬された技術に裏付けされた仕事をする。それが品のある仕事だと思うんです。いいかげんな仕事はしないということです。それが、時を超えて、受け継がれてきた京都という土地柄なんです。「京都の仕事」の流儀なんです。でも仕事を続ければ、続けるほど、これが難しいんです」

かまだ・こうじ　1948 年京都市生まれ。陶芸家。京都府立陶工訓練校専攻科終了後、同校指導員となる。日本工芸会正会員。天目の焼き物の第一人者で、ニューヨークやパリなど世界各地の美術館で作品が所蔵されている。2015 年から京都芸術家国民健康保険組合理事長。